

校長室より

第102号

「天空高き」



平成29年11月22日

### 「挑戦」—人生はチャレンジ—

右の色紙は、皆さんの先輩である、東京海上日動火災保険株式会社取締役会長の隅修三さんから頂いたものです。

何かをしようとすれば、当然それは挑戦になります。皆さんはこれまで、いろんな場面で挑戦してきたと思います。人生、ある意味、挑戦の連続です。人生を歩み続ける限り挑戦は続きます。挑戦を諦める時が人生の終わりなのかもしれません。

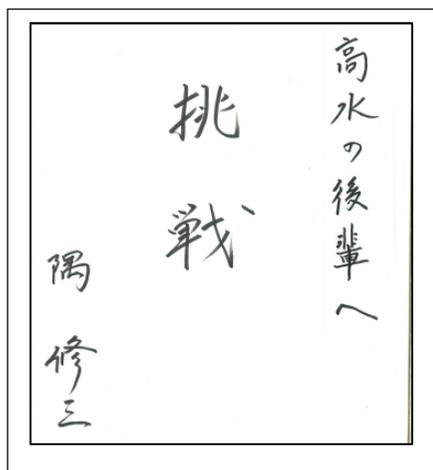
ところで、11月11日（土）に山口県セミナーパークで高校生対象の第7回「科学の甲子園」山口県大会が開催されました。県内の12校25チームが参加し、本校が見事一位を獲得し、来年3月に埼玉県で開催される全国大会にコマを進めました。

本校は1回目から参加しており、第1回大会で優勝していました。しかし宇部高校も同点1位で、全国大会を賭けた翌週の決勝大会で敗れ、全国大会には出場できず、悔しい思いをしました。

今回は単独の一位で念願の全国大会への切符を手にすることができました。

今年は附属中も科学の甲子園ジュニア大会で優勝していますので、アベックでの出場になります。

全国への挑戦の権利を自らの努力と実力で勝ち取ることができましたが、多くの方々のサポートがあつての結果です。感謝の気持ちを大事にして、高水プライドを大いに発揮して“チーム高水”として闘ってきてもらいたいと思います。



本気で叱るとは、その人の可能性を本気で信じるということです。

シンクロナイズドスイミング日本代表ヘッドコーチ 井村雅代

## 2017流行語大賞

今年流行した言葉を決める『2017 ユーキャン新語流行語大賞』の大賞候補 30 語が発表されました。

ブルゾンちえみさんの持ちネタ『35 億』や、サンシャイン池崎さんの『空前絶後の』という叫び、爆発的にヒットした玩具『ハンドスピナー』などの言葉が連なりました。

その中に、「人生 100 年時代」という言葉がありました。出典は首相官邸ホームページからです。そのホームページには、

「人生 100 年時代構想」人生 100 年時代構想とは、一億総活躍社会実現、その本丸は人づくり。子供たちの誰もが経済事情にかかわらず夢に向かって頑張ることができる社会。いくつになっても学び直しができ、新しいことにチャレンジできる社会。人生 100 年時代を見据えた経済社会の在り方を構想していきます。

皆さんの人生は「100 年」で考えなくてははいけません。10 月の中・六講演会で柿木講師が『LIFE SHIFT』という本を紹介されました。

その中に、これまでは人生を「学ぶ時期・会社勤めの時期・引退後」という3つのステージで考えていたのを、人生 100 年になると、人それぞれ、多様なライフステージを考える必要があるそうです。そして生産的な人生を送るためには、「有形資産」であるマイホームや現金や銀行預金等と同様に、「無形資産」が必要になるそうです。

「無形資産」とは、具体的には次の3つです。

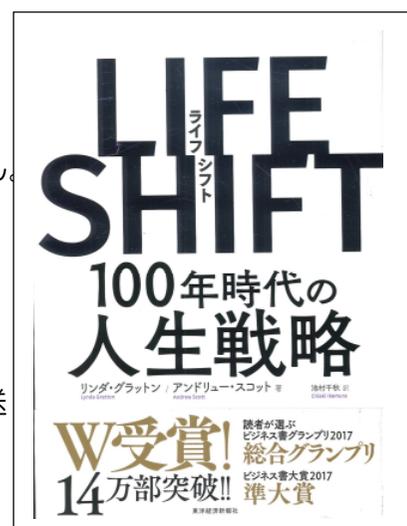
まず「生産性資産」。これは仕事に役立つスキルや知識など。また、仕事につながる人間関係や評判といったこともそうです。

次に「活力資産」。これは健康、友人、愛など。それぞれの人に肉体的・精神的な幸福感と充実感を持たせ、やる気をかきたて、前向きな気持ちにさせてくれる資産です。そして「変身資産」。人生の途中で、新ステージへの移行を成功させる意思と能力です。

人生がマルチステージ化する 100 年時代には、次のステージにうまく移ることが非常に大事になるそうです。

日本は世界でいち早く長寿化が進んでいます。過去のモデルは役に立ちそうにありません。皆さんひとり一人が人生 100 年を有意義に過ごすために、どのような人生を送りたいのか、今から真剣に考えなくてははいけません。

【大賞候補 30 語】アウフヘーベン、インスタ映え、うつヌケ、うんこ漢字ドリル、炎上〇〇、AI スピーカー、9.98 (10 秒の壁)、共謀罪、GINZA SIX、空前絶後の、けものフレンズ、35 億、J アラート、人生 100 年時代、睡眠負債、線状降水帯、忖度、ちーがーうーだーろー!、刀剣乱舞、働き方改革、ハンドスピナー、ひふみん、フェイクニュース、藤井フィーバー、プレミアムフライデー、ポスト真実、魔の2 回生、〇〇ファースト、ユーチューバー、ワンオペ育児



## 11月の目標「本を読む」

11月は読書の秋といわれています。その由来には諸説がありますが、一つには古代中国の唐時代の詩人、韓愈（かんゆ 768-824）の漢詩にあったという説が有力とされています。

それは韓愈の息子の符（ふ）に、学問の大切さを詠んだ詩である「符読書城南詩（ふしよを じょうなんに よむ）」の中にあります。

その一節に「灯火（とうか）親しむべし」というところがあります。その意味は「涼しく夜の長い秋の夜は灯火の下で読書をするのに適している」ということです。それから、秋は読書にふさわしい季節であるというイメージになったといわれています。

さらに、それを夏目漱石が「三四郎」という小説の中で取り上げたことから、秋は読書に適しているということが広く知られるようになったといわれています。

そして、大正時代に「図書週間」としてはじまり、昭和時代に「図書館週間」と改称され、戦後「読書週間」として復活して、爆発的に「読書の秋」が普及していったようです。

人生において幸せなことは、3つの師を得ることです。3つの師とは、一生尊敬できる「教師」という師、お互いを励まし支え合いながら、泣き笑いを共有できる「友」という師、そして、生きる勇気と感動を与えてくれる「書物」という師、です。

広辞苑で「師」を引くと、「学問・技芸を教授する人」とあります。英語で訳すと「teacher」です。本、「book」は「teacher」ということになります。本校には、年間で100冊以上の本を読んでいる生徒がたくさんいます。100人の「teacher」、先生に教えてもらっていることになります。本が素晴らしいのは、いつでもどこでも読めるところですね。いつも身近なとこに一冊の本があるということは本当に幸せなことです。

## 閉鎖空間での団体生活—南極越冬隊の生活—

少人数が逃げ場のない閉鎖的な場所で生活するとどうなると思いますか？

南極越冬隊として「昭和基地」から270 km離れた「みずほ基地」で、2月～9月までの8ヶ月間、6人で過ごした中のある方の手記です。

外は日中も太陽が出ない暗闇の冬で飛行機

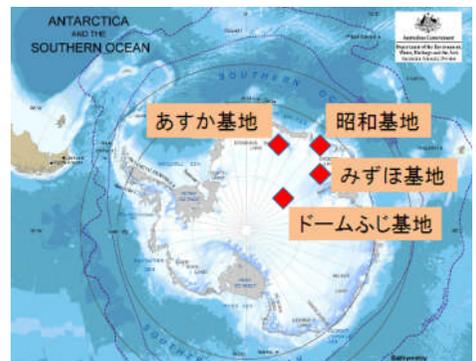
## 11月 月間目標

### 本を読む

平成29年度  
チャレンジ目標

1. 先に元気なあいさつ
2. 5分前行動
3. 1%を誰かのために

校長室より



も雪上車も動かず、隔絶された空間で過ごします。外との連絡は朝夕の定時無線通信で昭和基地と話すだけです。ネットもスマホもない1984年の話です。

研究者3名、技師2名、医者1名が500mの氷床掘削を目指す目的で生活しています。動ける空間は雪の下に掘られており、暖房が効いた居住棟以外は基地の年平均気温と同じマイナス35度の作業場で過ごします。

6人で8か月間、閉鎖空間で生活をしていると一番の大きな問題は、この閉鎖空間でチームワークを保つことです。

会話だけだと1か月で話題が尽き、一度聞いた話も初めて聞くふりをしますが、長くは続きません。

そのような状況下で毎日の潤いをもたらしてくれるのは唯一食事です。

食事当番は6日ごとで、当番になると一切の仕事から外れ、6人分の食事を作ります。丸1日かけて準備します。

話題作りが目的になるので、とにかく手間のかかっていることが重要で、レトルト食品は使わず、例えば、ラーメンは麺から作ります。マズくても話題性があれば場が和むからです。

食事当番になるといつも次回のメニューを考えて、数日前から材料を解凍しておきます。越冬中、みんなに一番読まれた本は主婦の友の「365日のおかず」で、ボロボロになるほど愛読されていました。 吉田 稔（白山工業社長）

「衣食足りて礼節を知る」という諺がありますが、「食」というのは生命を維持することはもちろんですが、チームワークを維持するうえでもとても大事なことのようにです。毎日の食事を準備しておられる方々にあらためて感謝ですね。

## 24節気

【立冬】りっとう：11月7日頃

この日から立春の前日までが暦の上では冬となります。木枯らしが吹き、冬の訪れを感じる頃。太陽の光が弱まって日も短くなり、木立ちの冬枯れが目立つようになります。木枯らしが吹くのは、冬型の気圧配置になった証拠です。

【小雪】しょうせつ：11月22日頃

木々の葉が落ち、山には初雪が舞い始める頃です。「小雪」とは、冬とは言えまだ雪はさほど多くないという意味で、冬の入口にあたります。

出典「暮らし歳時記」